

平成24年度土砂災害防止に関する絵画・作文  
作文（小学生）の部 国土交通事務次官賞

宮崎県 宮崎市立大淀小学校 6年 吉住 美玲

「土砂災害について」

今年は七月十一日から十四日にかけて、大雨が降ったので、土砂災害も多かったと思います。ニュースでは三十人くらいの方が亡くなったと言っていました。私はそのニュースを見て思ったことがいくつかあります。

一つ目は、土砂くずれの恐ろしさについてです。大雨が降ると山などの一部がくずれて、家などを巻き込みます。そうすると、人の命までも奪ってしまう場合があるからです。

二つ目は、土砂災害が起きても人の命までは奪わない場合があるということです。でも、その影響で道路などが使えなくなり、私たちの生活が不自由になることもあると思いました。

私は五才の時に、日之影町の鹿川地区に住んでいました。その地区は、日之影町の役場から約二十キロメートル、車で約三十分のところにあります。しかし、その地区に通じる道路は、一本しかありません。しかも、道幅がせまく、車と車がすれ違うのも困難な場所もあります。片側が山に面し、もう片側の下には川があるという危険な場所でした。だから、ちょっとした雨でも長く続くと、土砂くずれの危険があるので、十五キロメートルはなれた保育園に両親が早めにむかえに来てくれていました。

二〇〇五年の台風十四号の時もそうでした。その日の夜中に大雨が降って、土砂崩れが起きて道路が通れなくなっていました。私は三日間保育園に行けなかったので、両親が勤務している中学校に避難していました。その時に、その地区が孤立していたことも後で聞きました。電話もつながらず、衛星電話を使っていたそうです。

この時一番不便だったのは、土砂くずれの時に電線もいっしょに切れて、三日間停電が続いたことでした。停電したことで、冷蔵庫も使えなくなりました。だから、母は順序よく冷蔵庫の中のものを使って、食事を作っていたそうです。

ようやく、三日後の夕方に道を通れるようになったと聞きました。そこで、食料を延岡市に買いに行くことにしました。途中の山道は、何カ所もくずれていました。また、洪水で北方の町や延岡も浸水被害を受けていました。やっとのことで食料を手に入れることができました。

私達家族は、両親の転勤でその後宮崎市に引っこしてきました。私達が引っこした後も大きな土砂災害をうけていました。おみまいに行ったときには、川の形が大きく変わっていたり、畑や田んぼも流されていたりして、とてもびっくりしました。

今年の五月に、久しぶりに遊びに行くと、川の護岸工事が進んでいて、兩岸がコンクリートで固められていました。また、大きな砂防ダムもできていて、あまりの変わりようにおどろくとともに、今まで自分の好きだった自然豊かな風景が変わったことが残念でした。

土砂災害は雨などの影響で起きることはしかたのないことだと思います。しかし、一度土砂災害が起こると、人の命を奪ったり、私たちの生活が不自由になったりするので、防止する工事は必要だと思います。けれど、その工事で自然を失ってしまうこともあるので、自然とうまく調和した工事をするのが大切だと思います。